

講義名	現代ビジネス			授業形態	
担当教員	青木 良三	開講期・曜日・時限	前期 金曜日 3時限	単位数	2

履修開始年次

2年生

ナンバリング・コード

主題と概要

本講義の主題は、現代のビジネスで起きている出来事を経営学の観点から解説することにあります。本講義を受講することにより、学生は現代ビジネスの仕組み、とくにその経営を理論に基づき理解できるようになります。

授業ではビジネスの世界で起きている出来事を取り上げ経営学の用語を使って解説します。

「経営学入門」で修得した経営学の用語はしっかり理解していることを前提とします。

理解をしっかり学習したい学生は、「経営戦略論A、B」を履修してください。

授業のレベルは、初級レベルの「経営学入門」と中級レベルの「経営戦略論A、B」の中間のレベルとします。

到達目標

学生は、本講義を受講することによって、いま注目される現代のビジネスを経営学の観点から理解できるようになります。

学生は、ビジネス関連の記事に关心をもつようになり、その記事を解説できるようになります。

学生は、自ら現代のビジネスに関連する新聞記事などの情報を収集し、分析できるようになります。

学生は、現代ビジネスの仕組み、とくにその経営を、理論に基づき、自ら考え、理解することができるようになります。

提出課題

- レポート課題の提出を求めます。
- 5回程度レポート課題の提出を求める予定ですが、授業の進捗や新型コロナの感染状況によって、増減する可能性がありますので注意してください。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

- レポート課題や質問について、講義の際にフィードバックしますが、内容に応じて講義連絡や質問者に直接電子メールでフィードバックします。

評価の基準

- 期末定期試験を予定しています。配点は、期末定期試験70点、レポート課題30点とします。
- 新型コロナの感染状況等によってレポート試験になる場合があります。その際は提出されたレポートの得点合計により成績評価します（100点満点）。提出が少ないと、成績評価の対象としません。
- 成績評価方法を変更する場合（定期試験をレポート試験に変更）は、すみやかに連絡します。

履修にあたっての注意・助言他

- 期末定期試験は、授業中に話したことや板書した事柄、授業中に配布した資料から出題します。授業の欠席が多いと、試験で得点するのがむずかしくなるので気をつけてください。
- レポート提出回数が少ないと単位取得がむずかしくなるので注意してください。

教科書

教科書は使用しません。

参考図書

なし。

その他

・RYUKA Portal から資料をダウンロードできるようにします。

授業計画

- アマゾン 書籍のネット販売からプラットフォームへ
- アマゾン サブスクリプションサービス
- アマゾン 物流 ネットストックバーに進出
- ソフトバンク「グループの戦略 ヤフーショッピングほか
- ソフトバンク「グループの戦略」は、ファンド事業ほか
- ソフトバンク「グループの戦略」は、ファンド事業ほか
- アマゾン 取引環境の変化とアリティ 勉強の問い合わせ
- ソニー ビジネスマルチの転換 ネットビジネス
- ソニー エンターテインメント・ビジネス（ゲーム、音楽、映画）
- ソニー ベンチャーズ A.I.
- イノベーション 自動運転
- グーグルのビジネスモデル（検索エンジンと広告）と経営戦略
- フェイスブックのビジネスモデル（SNS広告）と経営戦略
- まとめ - ビジネスのデジタル化

授業形態（アクティブラーニング）

<input type="radio"/> ア : PBL（課題解決型学習）	イ : 反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ : ディスカッション、ディベート	エ : グループワーク
オ : プレゼンテーション	カ : 実習、フィールドワーク
キ : その他（A.L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

- 予習について、テキストはありませんが、シラバスに記載した企業に関する雑誌記事、新聞記事を読んでおいてください。
- 復習は、配布した資料を読んで、出てくる経営学の用語などの意味をしっかり理解し、使えるまで学習してください。
- 予習に2時間、復習に2時間が目安となります。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

- 学生は、本講義を受講し、毎回の授業の予習、復習を欠かさなければ、最新のビジネスについての情報収集力、情報分析力、課題発見力、課題解決に向けた構想力が身につきます。
- 学生は、現代企業の経営について、理論に基づき、自ら考え、理解することができるようになります。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

- レスポンスを使用する場合は、事前に講義連絡します。

実務経験の有無及び活用

・実務経験あり、1979年から1997年まで銀行に勤務。産業調査や融資、ファンド運用を担当しました。授業で取り上げる企業の事例について、企業分析の実務経験を踏まえたコメントができます。新聞記事とは違うコメントができると思います。

備考

講義について不明な点は、問い合わせてください。

- 問い合わせについては、公開された電子メール（Ryozo_Aoki@red.uns.ac.jp）で対応します。
- 対面を希望する場合は、以下のオフィスアワーを利用してください。研究棟 207。

オフィスアワー